

「幸せになりたい」

主任司祭代行 松本 巖

皆様は、年末年始をどのようにお過ごしになられたことでしょうか。私は高円寺教会で初めてのクリスマス。皆様と祈りを共に出来ましたことを特にありがたく感じました。また、元日ミサの中で、皆様の幸いをお祈りいたしました。皆様方も、それぞれの場で一年の「幸い」を祈願なされたことでしょうか。時間の流れは速いもので、今年ももうずいぶんと過ぎていってしまいました。

「幸せになりたい」という願いは、私たちに共通する根源的な欲求です。何をかうか、何を着るか、どこに住むか、何を食べるか、誰と暮らすか…。どれも「もっと幸せになるために」選び、決断します。このところ高円寺教会では結婚式が続きますが、結婚とは「幸せになるために」するとても大きな決断でしょう。そこまでではなくとも、私たちは毎日、いや毎瞬、毎瞬、幸せを願い、探し、選んでいると言えるかもしれません。では、「何が私を本当に幸せにしてくれるもの」なのでしょうか。社会や世間が持て離しているものを手に入れることが、本当に私にとって価値ある幸せの保証なのでしょうか。それがないと不幸なのでしょうか。

もし、神様に、「がんばっているあなたにご褒美として、幸せになるために三つの願いをかなえてあげよう」と言われたら、私は悩むでしょう。何を求めたらよいのかと。どうなったら幸せになれるかと。そして、結局、言うかもしれません。「このままにしておいてください。幼稚園の子どもたちや先生方、保護者の方々との関わり、教会の信徒の方々との絆のなかにいられる自分は本当に幸せですから…。」世間から見たらちっぽけな、ささやかな幸せかもしれませんが、現状の自分を受け入れられることは本当に「幸せ」なことだと思います。

自分は「幸せになってはいけない!」と決めてしまっている方がおられます。あんな事をした自分は、あんな扱われ方をした自分は幸せになる資格が無いと決めてしまっている人がいます。

神の赦しと慈しみから除外されている人はいません。救いの泉から外されてしまっている人は一人もいません。

まずは、私を赦してくださっている神を私が赦す事から始めましょう。そして自分を赦す事、自分を認め受け入れることができたなら、隣人へのまなざしが優しくなることでしょう。

もうすぐ四旬節が始まります。赦しと和解の恵みがみなさんのうえにありますように。